

浦幌町立博物館だより

2024(令和6)年9月号



編集・発行: 浦幌町立博物館 ☎089-5614 北海道十勝郡浦幌町字桜町16-1 / ☎015-576-2009 / ✉info@museum-urahoro.jp

オオアワダチソウをひたすら抜く理由



左: 外来種のオオアワダチソウ 右: 8月に開催した「オオアワダチソウをどんどん抜くぞ!」の様子

8月、浦幌町立博物館では、移動博物館「オオアワダチソウをどんどん抜くぞ!」を開催しました。今年で2年目になる行事です。

この行事では、豊北海岸に繁茂する北アメリカ原産の外来植物オオアワダチソウを、根っこから引き抜きます。ひたすら抜くこと今年で2年目。来年も再来年も、少なくとも10年くらいは抜き続け、オオアワダチソウを海岸草原から減らすことが目的です。

オオアワダチソウの何が問題なのか?

なぜ、そこまでして、オオアワダチソウを抜かなければならないのでしょうか?

実は豊北海岸は、2016年の大型台風襲来で大量に流れ着いた漂着木を撤去する工事の影響で、一部の植生が大きく荒らされてしまいました。

荒廃し過ぎた植生は、そのままでは元の海岸草原の植生へ回復せず、外

来植物が繁茂します。特に最近では、長くて太い根茎を持つオオアワダチソウが増えたことにより、砂丘の一部に土壌がたまり、植生変化がおかしな方向へ進む原因となっています。

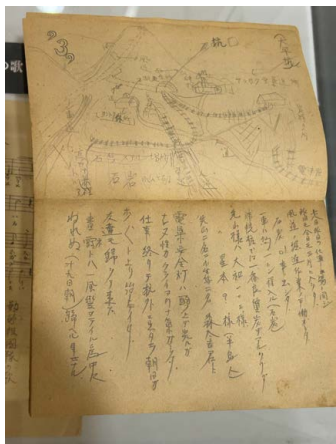
豊北に元の海岸植生を回復させるためには、人間が壊してしまった植生に少し手を入れて手助けする「植生管理」が必要です。博物館では今後もオオアワダチソウを抜き続けます。

(浦幌町立博物館学芸員 持田誠)

「博物館の収蔵資料から

こんな資料を集めています!

勤労報国隊員の記録



豊頃村(現豊頃町)の神谷重雄氏は、1944(昭和19)年2月12日から4月11日まで、「勤労報国隊員」として、浦幌炭鉱での勤務を命ぜられました。神谷氏はそのときの様子を日記風にノートに綴っていました。

こうした個人の体験記は、表の歴史には出て来ない、当時の炭鉱労働の実態を示す、貴重な資料です。

(浦幌町立博物館 学芸員 持田誠)

Pick up BOOK [注目の本]

図書館から

国語の授業では教わらない数え方辞典

飯田朝子 著 2024年5月 幻冬舎発行



「1人」や「1名」、「2冊」や「2部」と、普段何気なく私たちがよく耳にしているものから、「1咫(あた)」や「1簀(き)」など、現代の日常生活では、あまり聞かなくなったものまで幅広くある日本の「数え方(助数詞)」。実はその数え方には、それぞれに意味や歴史があります。

本書は中央大学教授である著者の解説で、日本の助数詞の意味を読み解き、言葉のエピソードを学べる一冊になっています。子どもから大人まで楽しめる内容となっておりますので、ぜひご覧ください。そこにはきっと、言葉に対する発見があるはずです。

(浦幌町立図書館 司書 部田麻紗乃)

【配架場所】
児童書・しらべものコーナー
分類 R815/イ



9月の博物館お知らせ

夏の企画展

閉山から70年-浦幌炭鉱-

2024年
7月20日(土)

9月29日(日)
10:00~18:00

場所:博物館特別展示ホール
主催:浦幌町立博物館

1954(昭和29)年の閉山から70年が経過した浦幌炭鉱は、十勝地方で唯一の石炭炭鉱でした。浦幌は、十勝地方には珍しい炭鉱町だったのです。

所蔵資料や写真などを用いて、浦幌炭鉱の歴史を振り返ります。



博物館実習

博物館実習生発表会

日時:9月7日(土)
13:30~15:00

講師:博物館実習生
入場無料・申し込み不要



博物館実習に来ている大学生に、自分の研究や学んでいることを紹介してもらいます。

夜学講座

フィンランドの先住民族 サーミの暮らし

日時:9月11日(水) 18:00~20:00
講師:アスラック・ホルンバルグ
(サーミ評議会議長)

入場無料・申し込み不要

サーミの文化や暮らし、先住権の取り組みを学びます。

共催:北海道大学先住民・文化多様性研究ステーション(GSI)、
ラポロアイヌネイション、北大開示文書研究会

移動博物館

絶滅危惧植物 ハマハナヤスリ観察会

日時:9月14日(土)
場所:豊北原生花園
集合:浦幌町立博物館(10:00出発)
定員:8名(電話・メールで申込受付)
※自家用車利用の方は申込不要です。



十勝では浦幌町からしか確認していないシダ植物ハマハナヤスリを観察し、保全対策の現状を学びます。

企画展関連シンポジウム

炭鉱遺産の保存と活用

日時:9月23日(月・祝) 14:00~17:00
講師:鈴木里奈(北海大学国際広報メディア・観光学院)
持田誠(浦幌町立博物館) ほか
入場無料・申し込み不要

炭鉱遺産の活用や記憶の継承などに関する各地の取り組みを報告し、将来の展望や課題について話し合うミニシンポジウムを開催します。

入館料:無料

開館時間:10:00~18:00

バリアフリートイレ完備
車いす常備
多言語化表記には未対応

学芸員:1名配置

展示解説の申込み、レファレンス、
資料調査等は事前に電話かメール
にてお申し込みください。

9月 休館カレンダー

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

休館日:月曜日・祝日の翌日

9月27日(金)は月末資料整理日で
休館いたします。



JR根室本線浦幌駅下車徒歩8分
帯広駅より普通列車...約1時間
池田駅より普通列車...約30分
釧路駅より普通列車...約2時間
鉄道のご利用が便利です!

【運賃】

帯広~浦幌間 1290円(片道)
釧路~浦幌間 1680円(片道)



駐車場無料
帯広市より国道38号線約1時間
釧路市より国道38号線約1時間半
道東自動車道浦幌ICより約50分



浦幌町立博物館
The Historical Museum of Urahoro

お申し込み・お問い合わせ:電話 015-576-2009
〒089-5614 北海道十勝郡浦幌町字桜町16-1(図書館併設・役場となり)
E-mail: info@museum-urahoro.jp / https://museum-urahoro.jp